

2024年度事業報告・収支決算を承認

第7回(通算第176回)通常議員総会



7月30日、当商工会議所は第7回(通算第176回)通常議員総会を開催した。正副会頭をはじめ役員・議員の出席のもと、2024年度事業報告・収支決算と定款の一部変更が審議され、いずれも原案通り承認された。

同年度事業においては、原材料価格や人件費の高騰を十分に価格転嫁できずに苦慮する中小・小規模事業者の事業継続に向けた支援を実施。また、国内外の販路開拓やビジネスマッチング、大規模展示会への出展支援にも取り組んだ。

スタートアップ支援では、主要企業の新規事業担当者を組織化した「神戸イノベーション・コミュニティ」や地元出身の起業家として活躍する経営者による組織「神戸イノベーション・リーダーズ」を設立。異業種ネットワークの構築を推進し、交流の促進やイノベーションの創出に取り組んだ。

都市機能の強化では、都心・三宮再整備や道路ネットワークの早期整備を国や自治体に求めるとともに、大阪・関西万博の開催や神戸空港の国際チャーター便就航を見据えた国

内外へのトッププロモーションを実施した。

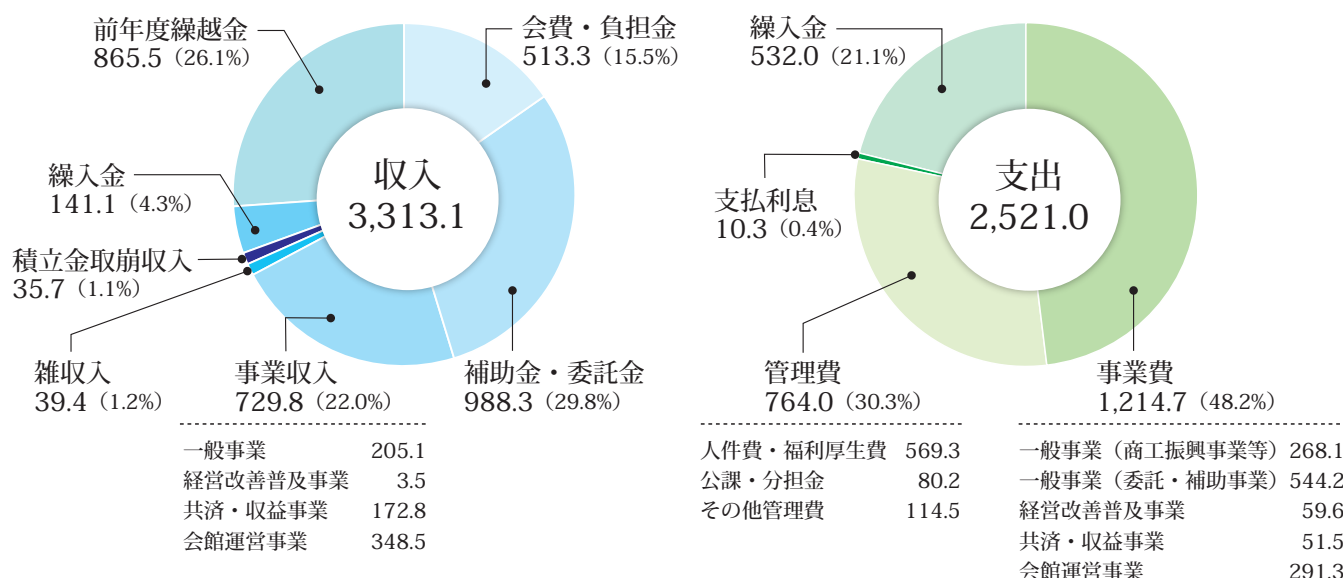
議案

- 第1号議案 2024年度事業報告の件
- 第2号議案 2024年度収支決算の件
- 第3号議案 定款の一部変更の件

議案審議の終了後、(株)ANA総合研究所取締役副社長の森健明氏を講師に迎え、「神戸空港の強みをこれからどう活かしていくか」をテーマに講演会を開催した。

2024年度 事業会計収支決算

(単位：百万円)



※特定退職金共済掛金保険料(696.6百万円)および退職給付金(914.3百万円)は除く。

※収支差額792.0百万円は次年度へ繰り越す。

※端数処理の関係上、各項目の金額と合計が一致しない場合や構成割合の合計が100%にならない場合があります。

7.9

神戸港から貸切チャーター船で万博会場を訪問

大阪・関西万博視察会

神戸商工会議所・兵庫県下商工会議所の役員・議員を中心としたメンバー50名による、大阪・関西万博視察会を実施した。

本視察会は川崎会頭の発案により、早駒運輸(株)の協力を得て、神戸港から万博会場までの往路を貸切チャーター船「boh boh KOBE」による海上ルートで移動。船上では、国井副会頭による乾杯挨拶を皮切りに昼食パーティをスタートし、参加者は海上から眺める大阪湾の景色とともに

食事を堪能した。

万博会場到着後は、ミャクミャク像を背景に記念撮影を行い、その後、関西パビリオンや日本館、いのちの未来パビリオンなどを視察した。関西パビリオンの兵庫県ゾーンでは「HYOGOミライパス」を体験し、兵庫県の歴史や文化をめぐる約10分間の映像を楽しんだ。

参加者からは、「神戸港から船で万博会場に向かう特別感のある視察会だった」との声が聞かれた。



総務部



7.16
～19

万博を機としたビジネス機会を創出

未来モノづくり国際EXPO2025

大阪・関西万博を契機とした会員企業のビジネス機会の創出に向けて、インテックス大阪で実施された国際見本市・展示会「未来モノづくり国際EXPO2025」に神戸商工会議所のブースを出展した。

出展ブースには、独自の製品や技術を持つ神戸のものづくり企業として、ハニー化成(株)、(株)千代田精機、日本ジッパーチューピング(株)、(株)B-Lab、エルアップシステム(株)の5社が参加。4日間の会期中、各社の技術や製品を来場者に

紹介するとともに、名刺交換や商談を活発に行った。

また、川崎会頭が現地視察のために同ブースを訪問。出展企業の製品や技術について説明を受けるとともに、各社の担当者と意見交換を行った。

出展者からは、「これまで大阪のイベントへの出展機会は少なかったが、有意義な機会になった」「普段接することがない異業種の展示を見ることができ、新たな刺激を受けた」との声が聞かれた。



地域政策部



7.1

生成AIの活用に潜む法的リスクを学ぶ

生成AIのビジネス導入と法的リスク解説講座



生産性向上を目的にビジネス活用が進む生成AIは、不適切な利用をすれば、意図しない結果を招くリスクを伴う。AIに関する正しい知識や利用法を学ぶため、牛島総合法律事務所弁護士影島広泰氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

影島氏は、生成AIを活用する上で個人情報保護法や著作権法に抵触しがちなポイントを説明するとともに、社内ルール作成時の留意点について解説した。

また、「生成AIシステムの利用規約を事前確認することが重要。法律の解釈は複雑であるため、判断に迷った時は気軽に専門家に相談してほしい」と語った。

会員事業部事業推進チーム

7.1

通年型スケートリンクを視察

Sysmex Kobe Ice Campus 視察会



神戸スポーツ産業懇話会は、6月に開業し、スポーツ文化の醸成や一流アスリートの集積などが期待される「Sysmex Kobe Ice Campus」の視察会を開催した。

同施設を運営する(一社)神戸スケート理事の赤松康輔氏は、「スケートリンクを通じて、未来のアスリートの育成や地域社会の活性化に貢献していきたい」と語った。

また、同施設を練習拠点にするプロアイスホッケーチーム「スターズ神戸」代表取締役の黒澤玲央氏は、「アイスホッケーはスピード感や衝突音、パックの打球音といった臨場感が魅力。神戸からアイスホッケーを盛り上げていきたい」と力を込めた。

産業部産業振興チーム

7.2

主要企業の新規事業担当者が交流

神戸イノベーション・コミュニティ特別例会



神戸の主要企業の新規事業担当者が集う神戸イノベーション・コミュニティの特別例会を開催。行政や支援機関の取り組みを紹介するとともに、(株)みずほフィナンシャルグループ執行役員の中馬和彦氏を講師に迎え、特別講演会を実施した。中馬氏は前職のKDDI(株)で数多くのオープンイノベーションを活用してきた事例を紹介し、「スタートアップとの出会いは探すものではなく、様々な活動や人との接点の中で生まれるもの」と強調した。

また、講演後のネットワーキングでは、参加者同士が活発に意見交換し、交流を深めた。

産業部産業振興チーム

7.4

脱炭素・GX支援策を一挙に紹介

脱炭素・GX支援施策説明会



2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国や地方自治体は中小企業の脱炭素化の取り組みを加速させるため、補助金や人材育成制度など豊富な支援策を提供している。

これらの活用を通じて会員企業の脱炭素化を促進するため、次世代産業委員会は、環境省・経済産業省・兵庫県・神戸市・NEDOの支援策について一挙に理解を深め、個別相談ができる説明会を開催した。

参加者からは、「行政の取り組みや支援メニューをまとめて理解できて良かった」との声が聞かれ、会場では登壇者に熱心に相談する様子が見られた。

産業部産業振興チーム

7.14

資金調達の基礎を知る

経営者なら知っておきたい資金調達の基礎知識



日本政策金融公庫神戸支店融資第一課長の高橋庸輔氏を講師に迎え、創業間もない経営者を対象に、資金調達の基礎知識について学ぶセミナーを開催した。

高橋氏は、資金調達の手段として、プロパー融資、信用保証付融資、政府系金融機関の融資を挙げ、それぞれの特徴を説明。「金融機関の審査では決算書の純資産や損益・収支に着目している。融資を受けやすくするためには財務内容の健全性を意識して経営を行うことが重要」と強調した。

参加者からは、「自社の財務分析や資金調達に役立てた」との声が聞かれた。

中小企業振興部

7.23

ランディングページの最適化と改善について学ぶ

デジタルマーケティングセミナー（LP編）



成果を出すランディングページ（LP）の育て方をテーマに、(株)スワールコミュニケーションズの安田渉氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

安田氏は、ペルソナ設計と差別化分析から業種別に有効なLPの形式を紹介。さらに解析ツールを用いた改善事例を紹介し、「自分が良いと思ったものが必ず成果につながるとは限らない。仮説を立ててパターンを比較することが改善の近道になる」と強調した。

参加者からは、「LPを作るだけで満足していたが、さらなる改善のヒントが得られた」との声が聞かれた。

東神戸支部

7.25

外国人材の採用に関する基礎知識を学ぶ

中小企業のための外国人採用のヒントセミナー



中小企業の外国人材の採用を促進するため、森興産(株)事業連携推進部長の森太輔氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

森氏は、外国人雇用の現状や採用におけるメリット、在留資格の違い、定着に向けた仕組みづくりなどを紹介。「採用を検討する前に外国人の語学力やキャリアプランの考え方などを理解しておくことが重要。留学生などと交流する機会をもってほしい」と語った。

参加者からは、「初めて外国人材の採用に取り組んでいるが、セミナーに参加し不安を解消することができた」との声が聞かれた。

会員事業部事業推進チーム

8.1
～3

万博会場で神戸の魅力を発信

KOBE COLOR



大阪・関西万博の来場者に神戸の魅力を発信し、神戸への誘客を促進するイベント「KOBE COLOR」が神戸市の主催により万博会場内で実施された。期間中は有馬芸妓の練り歩きやふるまい酒、ジャズライブ、「海・山・空」をテーマとしたアート体験など神戸らしい取り組みが行われた。

本催事には、神戸商工会議所会員企業が多数参画し、パンや洋菓子、日本酒、ワインの試食・試飲や、ノベルティ、会場内装飾などに商品が提供された。

来場者からは、「この空間に神戸の魅力がぎゅっと詰まっていた。実際に神戸を訪れて、観光・産業・グルメを体験してみたい」との声が聞かれた。

地域政策部